

## (特別演武)

### 直心影流『法定』の概要

直心影流は、五百年以上の歴史ある古流・源流の一つで、流祖は、戦国時代末期の常陸の国、鹿島城主の家老の一人(鹿島神宮の神官)松本備前守尚勝といわれる。この流派の、ゆかりの人には、〈流祖〉松本備前守尚勝、塚原卜伝、〈第2代〉上泉伊勢守秀綱、疋田文五郎、丸目蔵人、柳生宗巖、〈第十三代〉男谷精一郎、〈第十四代〉榊原健吉、島田虎之介〈第十五代〉山田次郎吉(十五代までが道統者である)

直心影流は、山田次郎吉、加藤完治、大森曾玄などの先師から現代に伝承される。

山田次郎吉は、直心影流の真髓、法定之形を霊剣傳に有る所の右剣左剣より出たる神伝の太刀筋にて是を『法定』と名付けたる也。比法定は、気合を第一として教えるなり。法定を勤むるには、喜怒哀楽愛悪欲の七情を捨て、無念夢想にして勤めるべき也。と教えている。

本日は、直心影流の原点といわれる『法定』を演武する。

#### 【演武者】

打 太 刀	東京都剣道連盟古流会法定師範 (筆禅会) 横 田 寛 敦 (学校教員) *大森曾玄・寺山葛常に指導を受ける。
仕 太 刀 教士七段	東京都剣道連盟古流会・日本武道修錬会 谷 口 茂 樹 (東京都庁)

#### 【法定(ほうじょう)】解説

法定の教えは、呼吸法、太刀筋、気合、間合、運足などを学ぶところに大きな特徴がある。形は「八相発破」「一刀両断」「右転左転」「長短一味」の四本からなる。各本目の修錬に対する考え方・理合いは次のとおりである。

一本目「八相発破」・・春季発陽の伸び伸びとした氣勢で発し破る事を勤める。

\*草木が生育して行くが如く、のびのびと春を思い呼吸し形を行う。

二本目「一刀両断」・・夏季炎天、焼くが如き猛烈の気合を全身に充実させ、間髪を容れない勢いを勤める。

\*夏の烈しい日差しの如く、一气呵成に行う。呼吸も夏を思い善悪全て一刀両断する気合で望む。

三本目「右転左転」・・秋季肅殺の氣勢(厳しく草木を枯らす)で、無窮の変化を勤める。

\*変化に対応できるように行う。呼吸は秋を思う。

四本目「長短一味」・・冬季陰蔵に象り、精神の昇降自在を内修し、業は最も静かに勤める。

\*深く静かに内臓する呼吸・姿である。足切と間合の遠い場での対応を修錬する。